

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471000487
法人名	株式会社カスタムメディカル研究所
事業所名	スカイホーム 湘南
訪問調査日	平成 19 年 9 月 4 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 22 日
評価機関名	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家 族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月22日

【評価実施概要】

事業所番号	1471000487
法人名	株式会社カスタムメディカル研究所
事業所名	スカイホーム 湘南
所在地	神奈川県横浜市戸塚区名瀬町36-4 (電話)045-814-8290

評価機関名	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会		
所在地	横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成19年9月4日	評価確定日	平成19年10月22日

【情報提供票より】(19年7月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 8月 13日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	31 人	常勤	9人, 非常勤 23人, 常勤換算 13.4 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	5 階建ての 4 階 ~ 5 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(7月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	65 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	湘南泉病院、ふじばし内科、湘南台中央デンタルクリニック
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>ホームは戸塚駅から路線バスで所要時間約15分、バス停際の交通の便がよいところにある。法人が経営するビルの4・5階の専用スペースに設置されており、ホーム内は和室の居間と共に広い食堂がある。すべての居室には窓があり明るく居住性のよい環境となっている。</p> <p>開設6年を経過し、その人らしい自然な姿で過ごせるをモットーに、家族や地域と連携を大切しながら介護サービスを展開している。</p> <p>毎年恒例のバス旅行、ドライブ、外食など外出機会を確保し、更には町内清掃、盆踊り等行事への参加、ボランティアや中学生の体験学習の受け入れ等を通じて、地域の方との交流をはかっている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果については家族会に報告し、職員には回覧し、玄関の見易い場所に掲示している。取り組み課題となっている、水分の摂取については、チェック表を作成し改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で取り組み、最終的に管理者がまとめ、家族会に報告し、職員には回覧し、玄関の見易い場所に掲示して、サービスを見直す機会と捉えている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>7月末に家族を含めた運営推進会議を開催し、ホームの現況を報告すると共に、家族会と異なる視点での評価、意見等があった。意見等については朝礼等で職員間の話し合いの機会を持ち、サービスの質の向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の訪問時の声掛け、連絡ノート、3ヶ月毎に開かれる家族会等の機会を通じて、家族からの意見、苦情等の聴取に努め、運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設当初より自治会に加入し、町内清掃、盆踊り等の行事への参加、ホーム主催の交流会の開催、広報紙「スカイホーム湘南だより」の配布、地域の中高校生との文化祭や体験学習などを通じての交流をはかっている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「認知症高齢者を正しく理解し、ひとりの人間として受け入れ、その人らしい自然な姿で過ごせる～」を理念に掲げている。地域社会と共に歩んでいくことを日々の朝礼で確認しあっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「理念」は施設廊下の見易い場所に掲げられ、来訪者も確認しやすくなっている。職員は日々の朝礼では「理念」に沿って、ホームの目指すところは何であるか確認し、具体的なケアにつなげるための研修、カンファレンスを行い、「理念」がすべての活動に浸透するようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム開設にあたり、近隣に対して「グループホーム」について説明し、内覧会を開催し、理解を得られることに努め、開設当初より自治会に加入している。町内清掃、盆踊り等行事への参加、ホーム主催の交流会の開催、地域に広報紙「スカイホーム湘南だより」の配布、地域の中高校と文化祭や体験学習などを通じての交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組み、過去の外部評価結果については、家族会に報告、職員には回覧をし、玄関の見やすい場所に掲示している。また、外部評価はサービスを見直す機会と捉え、課題を朝礼時に話し合い、質の向上に努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	7月末に運営推進会議を開催し、ホームの現況を報告すると共に、評価、意見等を得た。その報告を元にして朝礼で話し合い、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が1ヶ月毎に開催している連絡会やキャラバンメイトへの参加など、様々な連携をはかるよう努めている。市の担当者より様々な情報提供を受け、困難事例についてはアドバイスを受け、質の向上に活かしている。キャラバンメイトでは管理者が講師を勤めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回利用者の生活状況、行事案内や行事の報告、金銭出納帳やレシートの写しを送付している。利用者の体調変化や要望には即対応し、電話やファックスで連絡している。更に「たより」を2ヶ月ごとに発行し、連絡ノートを家族と交換し、必要事項を相互で伝え合いサービスに活かしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームは家族の訪問時の声掛け、連絡ノート、3ヶ月毎に開かれる家族会等の機会を通じて、家族からの意見、苦情等の聴取に努め、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退職は少なく、現在のところ、十分な人員確保により安定した環境を保っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修では電話の対応、調理、自己評価並びに外部評価の認識、得意分野を確認できるエコグラム検査を受け、サービス提供に活かしている。法人内の相互訪問研修のほか、連携医療機関の内科医よりインフルエンザ等の感染症に関する研修を受けている。また、職員は自発的にも研修を受けている。朝礼時は研修報告の場としても活用し、研修内容の共有化を図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所のあるビル内の会議室を提供して、市内を幾つかに分けた「ブロック会」と称する40余りの認知症関係事業所が加入する定例会が開かれており、当ホームも参加し、研修や情報交換等の交流をはかっている。また、市の主催で年4回開催される連絡会に参加し、サービスの質の向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者の状況に応じ、体験入居をほぼ1日行い徐々に馴染めるように努めている。入院先からの入居のケースでは、職員が先方に向き主治医や家族より状況を十分に聞き、本人と顔馴染みになり、入居後のケアやその他の対応について工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の過去の生活歴や現在の状況を全職員の目で確認、把握して、対応している。食事作りの準備、生け花、植木プランターの世話、千代紙工作等で、利用者の得意なことの教え受け、共に学んだり支えあう場面づくりや声かけをするようにしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者から「酢の物が食べたい」、「お寿司が食べたい」、「飲み物は〜に」等の希望に出来るだけ対応している。意思の疎通が困難な利用者には、職員が率先して意向把握に努めている。また、日常的には気付きノートや家庭との連絡ノートで利用者の思いや意向の見落としがないように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者が自分らしく暮らしていけるため、必要に応じてケースカンファレンスを行い、全職員の気付きと共に、家族会や来訪時等を利用し、本人・家族の意見を聞き、ケアに活かすよう努めている。日常的には「職員による統一性ある介護」、「利用者の残存能力を上手に活かす」等をモットーにしたケアを実践している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月毎に全職員の目と家族の意向を反映させて見直し、6ヶ月毎に更新している。また、大きな変化が生じた場合には気付きノート等を活用し、本人、家族、職員の三者で話し合い、新たな計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	連携医療機関の認知症専門医による往診が月2回あり、相談をしたりアドバイスを受けてケアに活かしている。また、緊急時の外来対応や入院受入れ等を得られる体制となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療の継続を大切にする立場から、入居時に療養状況や主治医の有無等の把握を行い、入居後の療養等に活かしている。入居後も該当者には、原則月1回の往診があり、薬の処方や療養上のアドバイスなどを受けている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した利用者にはカンファレンスを頻繁に行い、主治医に相談し指導を受け、家族の理解と十分な連携を図るよう努めている。重度化に対する方針を職員間で話し合い、緊急連絡網等を作成している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への様々な話し掛け、トイレ誘導等では一人ひとりの誇りやプライバシーを損なわないよう対応している。個人ファイルは事務室の施錠できるケースに保管し管理している。入居の際に、個人情報保護に関する契約を交わしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は「利用者の残存能力を上手に活かす」をモットーに、利用者一人ひとりのペースを大切にしながら一日を過ごせるように支援している。利用者は起床時間から始まり、日中は食事の準備を手伝ったり、ゲームをしたり、歌を口ずさんだり、散歩等と、それぞれのペースで楽しんでいる。朝食の時も7～8時位に摂れるよう幅をもたせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士が作成するメニューに基づき、時には利用者の希望を取り入れ、利用者の健康管理に配慮して作っている。また、見た目も大切にすため、彩りを考え、旬のものを取り入れるなどの工夫もしている。利用者は食事の準備、盛り付け、片付けを職員と共にし、同じテーブルに就き、軽い音楽を聴き、歓談しながら楽しく食事をとっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回を基準としているが、利用者のこれまでの習慣や希望に合わせて対応しており、シャワー浴は何時でも可能である。入浴嫌いの利用者には誘い方を工夫して入浴してもらうようして、清潔保持と健康管理に心掛けている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人、家族から聴取した生活歴や本人の力を活かした支援をするように努めている。買い物、調理の手伝い、ベランダで鉢植え、生け花、小物作り、カラオケ等々を通して、利用者が主導となり、生活の張りに繋がるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出は、一人ひとりの希望に合わせて行っており、歩行が困難な利用者には車椅子や車での外出を支援している。皆で近隣のドライブ、外食等の外出も行っており、天候等で外出に支障があるときは、軽い運動を行い、各ユニットがある4、5階を行き来する等の変化を楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関には鍵は掛けないケアを行っている。配慮が必要な利用者をユニット毎に把握し、見守りや利用者の気分転換をはかるように心配りしている。本人の意思で出掛ける場合も、職員が見守りをして、利用者の自由な行動を支援することもある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今春に防災総合訓練を実施し、消防署や自治会との協力体制をとっている。防災カーテンにすべて換え、防災頭巾や携行食糧を準備し、災害対策関係のマニュアルを整備している。また、ビル内での交流会の折には、炊き出しのデモンストレーション、飲料水の確保(井戸あり)等、常日頃から「備えあれば憂いなし」の姿勢で災害対策をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は、管理栄養士が作成したものをもとに、利用者の希望も取り入れ、利用者の健康管理に配慮して作っている。食事摂取量は、その都度チェック表に記録し確認している。水分摂取量については、前回の外部評価を受け、チェック表を作成し改善に取り組んでいる。職員は情報を共有し、利用者一人ひとりの健康管理に留意している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>和室には、テレビ、応接セット、縫いぐるみ等が置かれ、ボードの中にはゲーム、囲碁の道具類が誰でも取り出せる状態になっている。次の間の食堂には大テーブルや椅子が置かれ、親しみやすい雰囲気となっている。ホーム内の随所に季節の花、手作りの小物類、書道、行事の写真が飾られ、廊下の数箇所にはベンチがあり、気の合う同士がくつろげるスペースがあり、居心地よく過ごせるように工夫をしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、ベッド、整理ダンス等の家具、備品類など、馴染みや好みの物が持ち込まれており、家族の写真、孫が描いた絵、趣味の鉢植えのプランター等も持ち込まれている。居室は清掃が行き届き、居心地よく過ごせるように配慮されている。</p>		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	スカイホーム 湘南
(ユニット名)	グループホーム あおい
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市戸塚区名瀬町 36 - 4 KMプラザ
記入者名 (管理者)	大形 敬子
記入日	平成 19 年 7 月 3 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		グループホームが地域社会と友にあることを朝礼時、確認し合い全スタッフが認識している。基本理念は、見やすいところに掲示している。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		毎日の朝礼時に、ホームの目指すところは何であるかを、確認し合いいかに実践して行くか、研修、カンファレンスを行っている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		定期的に家族会を開く。催し物、誕生会に来ていただき、日々の活動について理解してもらうよう努め、ホームの新聞を発行し、家族に配布しビル入口に掲示し近隣の人々にも読んでいただくよう努めています。、 今後、運営推進委員会を結成し、オブザーバーのことなど、近隣の方々の意見を取り入れ、ホーム内の様々な事項を開示し、入居者にとってよりよいサービスの提供につなげる。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		散歩、買い物時のなにげない言葉かけ、挨拶から自然に交流しています。 ビルの4階にあるため、エレベータを使うことにより、気楽な立ち寄りということにならないので、入口付近の雰囲気を楽しみやすく、どんな所かわかる写真などを掲示し、付き合いをより進めたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		自治会に属し、町内清掃、夏祭りなど催し物に参加し交流を計っております。又地域内の中学校の文化祭に参加、見学している。中学校、高校のボランティア活動、体験学習の受け入れをしています。 ホーム内での催し、コンサート、演芸会、お花見にと、地域の方々がより参加したくなるように工夫して行きたい。消防訓練、避難訓練にも積極的に参加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>管理者は、地域で催された「認知症とは何か、どう向き合うか」の公開講座で、講師を務め理解の推進を図る。</p>		<p>又キャラバンメイトに参加し、認知症に対しての啓発を行って行きたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員全員が、この自己評価に取り組み、自分達の業務やサービスを見直す機会ととらえ、朝礼の議題とし、日々改善の努力を重ねています。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>今年7月末第一回開催にむけ準備中です。家族会とは異なる視点での評価や意見を頂けるものと考えております。それらを真摯に受け止め、今後の更なるサービスに繋げていくよう努力したいと思えます。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市、区サービス課、高齢者担当者には、情報提供をしていたり、ホーム内での困難事例についても、アドバイスをいただいています。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修に参加し、朝礼時報告をすることで、制度や事業の理解、普及に努め、個々の家族にも必要性を説明し、後見人を付けておられる家族もいます。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>日常的に、何が虐待にあたるか、それはどこが原因となって起こるのかを、さまざまな要因から分析し話し合いを行っている。又高齢者の虐待防止の定義を廊下に掲示しています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ホーム内に於いて出来る事、出来ない事を契約書に明記されていることなど時間をかけ説明しました。御家族の意見、要望も伺い充分納得していただいた上で契約を結んでおります。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常生活の中、朝礼、外出時、あらゆる場面で利用者自ら、意見要望を自由に発せられるよう心がけ、家族への手紙、電話などで、いつでも連絡が取れる体制を整えています利用者、御家族、関係者ときたん無く意見を交換し、ケアプランに反映させております。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>3ヶ月に1回家族会を開催し、ホーム新聞を発行し、面会時にも日々の生活の様子をお知らせしております。お小遣いは、月初めに前月の収支報告を郵送しており、個人の体調変化、訴えに即対応、電話、FAXにて連絡をしている。職員の移動は、家族会、面会時に報告しております。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会、イベント等の機会を通じ、要望、提案等自由に発言していただき、家族同士が話し合える場を提供し意見を伺い、職員はそれらの意見を全員の周知のもとに、サービスの改善に努めております。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>朝礼、カンファレンス時互いの意見を交換しているのは言うまでもなく、話せるような体制を整えております。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>十分な人員を確保しローテーションを組んでおり突然の休みに対して、代わりの者がバックアップに入れるようにしております。夜勤者からの申し送りは、口頭にて聴き、ノートに記するようにしている。入居者のレベルダウンに伴い、状態に合わせ人員を増やしている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の頻繁な異動、離職はなく、安定した環境が保たれている。新職員にたいしては、新人研修を行い、認知症に対する理解を深めてから、距離感をもって接するよう指導しております。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日朝礼を行い、理念やケアについての話し合いを行っている。研修に参加した職員は、朝礼で研修内容をつたえている。(例：事業主の研修の場所になっている。)		ホーム内研修ファイルを作成し、定期的な見直しをする。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の定例会、連絡会への参加。同系列グループホームの研修を受け入れる事により、他の人の気付き、意見を参考とし、サービスの向上に努めております。同系列のグループの職員のスキルアップのための研修場所になっている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的な食事会・意見交換の場をもうけ、一人一人の意見を大切に、必要な際には助言を行う。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフ一人一人の得意分野を見つけ、力を発揮してもらい、成功した際の自信や意欲に繋げていく。自分の中で短期目標を定め、それに向け努力するようにし、自己啓発に努めております。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時、面接を行い現在困っている事、不安な事を聴きまず安心して頂けるように努める。居室が空いたとき、おためしに体験入居をしていただき雰囲気味わっていただくようにし、信頼関係を築く。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族、本人と共に面接を行い、利用者様から直接ここでの生活について話をさせていただき安心感を持っていただく。繰り返し話し合いを行い、ニーズを知るよう努めております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の電話等の時は、ホームに足を運んでいただき、困っていること、不安な事が何なのか具体化し、ニーズを把握し、地域のケアマネージャーと連絡をとり必要に応じたサービス利用を考えております。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームでの面接と合わせ、入居されている方々の交流が持てるようにし、食事を一緒に召上っていただいたり、雰囲気を感じてもらおう努めております。時には入居者本人も朝礼に参加意見を、同じ目線で話し合う。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々の得意な事、興味のある事を生活の中で発揮して頂く。調理、野菜きりなど。入居されている方が生きた時代の話をして頂きその時代を学ぶ。		買い物で荷物を持って頂いたり、食事作り、配膳、食器洗い、雑巾縫いなどして頂いたりし、そのときは必ず感謝の言葉を伝えるようにする
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来ていただいた際、昔の様子を聞いてケアのヒントにする。家族と一緒に外出したり、招待する機会を作り時間を共に過ごすよう支援しております。		家族面会時、近況を必ずお話し、不安な事変化があったときは随時連絡を入れるようにする。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会を通して認知症への理解を深めて頂く。あまり面会に見えない場合は、近況をFAXにて送らせていただき、面会にきて頂けるようすると共に、手紙、電話等して頂けるよう働きかけております。		病気にたいしての理解が得られるよう、周辺症状等説明している。近況をお話する。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人を取り巻く人間関係について把握し、電話、FAXなどで連絡を取り、繋がりを継続できるよう支援している。		本人の希望があった際は、電話、手紙は自由にかけてたり、出したりされている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士、居間でくつろいでおられるときなど、見守りをし、小さないざこざなど職員は、介入し過ぎないようにし、互いに話し合い解決策を見出していただく。		他入居者とのかわりが、むずかしい方には職員が仲介に入り、その方が主役になれる場の提供を支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居の際は、その人に合った行き先、サービスの紹介を行っている。		退居後もご本人が、その人らしく生活できるように、必要に応じて情報提供をおこなっている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何をするのも、本人の意思確認し尊重するよう努めている。本人の好きな飲み物を用意する。家族に電話をしたいなど、一つ一つに対応するようにしております。		相手の立場に立った考え方ができるよう、心がけ、話し合いを行っています。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面接、面会時、折々家族から情報を得ておく。入居者の方々からも昔の話など聞く。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事の時は、同じテーブルにつき、食事の進み具合など気に止めるようにする。本人が出来る事判る力を把握しておくよう努める。一人一人に合わせ、好みに合った調理、キザミ、トロミ、本粥等にしております。		日勤、夜勤の申し送りノート、気づきノート、個人記録業務日誌を活用し把握する。
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ことあるごと細やかなケースカンファレンスを行う。面会、家族会を利用し、御家族の意見も伺い、ケアに生かせるように努めております。		一方の視点からではなく、多角的にその人は、見ていくよう努めケースカンファレンスをまめに行う。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに更新。状況に合わせ、必要な際はケアプランの見直しをおこなっている。本人、家族、職員の三者で話し合う場合もあります。		介護計画につなげる為ためにカンファレンスを行い、気づきノートなど活用し、スタッフ間の共有に努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は、センター方式D-4をしよう、入居者の言葉などを記し、介護計画に活かす。気づきノート作成し、職員間で共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列病院から、月2回認知症専門医の先生に往診をしていただき、意見アドバイスを受けている。系列病院への外来受信、入院等。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	踊り、コーラス、バレエ、などボランティアの方々の援助により、楽しまれる。消防署指導による消防訓練。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他サービスを利用することにより、実費が発生する為利用しておりません。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	7月末に運営推進委員会開催を予定しており、センター職員に委員を依頼し、今後協力していくこととします。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ビルの1Fにはクリニックがあり、月1回往診により、薬の処方を受け、アドバイス、相談をしています。系列病院から認知症専門医師の往診。湘南台歯科クリニック、共立第一、第二病院を利用しております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	系列病院から、月2回認知症専門医師月2回往診実施、薬の処方を受け、細やかなアドバイス、相談をし、適切なサービスを提供しています。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム職員の看護師が細やかに指導し、食事、バイタル、水分チェック、睡眠排便の有無など気を配り、異常のサインを早期に発見できるように努めております。		水分チェック表、排便表、バイタル表、月1回体重測定などを行っています。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際主治医、家族、病院関係者と話し合い、法人の病院からも協力を得て、3週間をめでに連絡を密にし、退院の見通しをつけております。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化された方のカンファレンスをまめに行い、かかりつけ医師に相談、指導を受け職員間で情報を共有し、より良いサービスを提供しています。		介護ではなく、医療面での支援が多くなってきた場合、家族への連絡を密に行っています。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化された方々に対する対応、注意すべき点(じょくそうの防止)など細やかなケアを行うべき勉強をし、医師からのアドバイスを受けております。		かかりつけの医師と相談の上、受け入れ病院などを検討し、リストアップしておく。
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	十分な話し合いが行われ、時には糖尿病の入居者さんには、家族、主治医、本人等の意見を沢山取り入れ情報交換しております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人前であからさまに介助しないようにし、本人を傷つけない様に言葉掛け対応に配慮している。 個人情報保護に関する契約を事業所と交わし徹底を図っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者自身の希望に合わせて本人が決められる様配慮している。 個々にあわせたレクリエーションをたのしんでいただいたり、希望にあわせた飲み物を用意するなど。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>常に利用者が主人公であり、一人一人のペースに合わせて、その人らしい生活が送られるよう支援している。</p>	<p>朝礼で、ことあるごと、管理者は利用者が主人公ということを職員に話しております。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人主体で衣類を選んだり、身だしなみを整えていただくか、不十分なところはさりげなく直している。 2ヶ月に1回訪問理美容をうけておられる。希望があれば、なじみの理美容を支援している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>時には利用者の希望のメニューを取り入れている。 食事準備、片付けを職員と共に行い、同じテーブルに付き一緒に食事をしております。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>利用者、それぞれの好みの物を把握し、食事おやつに順番に取り入れたり、個別に用意し、楽しめるようにしております。</p>	<p>誕生会には、本人の希望に合わせた料理を出すことを心がけております。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄パターンを把握し、さりげなく支援し、失敗時本人が傷つかない様、周囲に気づかれないようにさりげない配慮をしている。 排泄記録をつけております。</p>		<p>便秘がちの方には、牛乳・ヨーグルト・すりおろしリンゴな飲んで頂いて、排便を促すようにしています。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>本人のこれまでの、生活習慣や希望に合わせて入浴できるよう支援し、シャワー浴はいつでも可能である。 負担にならないよう程度の入浴時間で自由に入浴して頂いております。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>外出、レクリエーション後などは、個々の疲れ具合により急速していただく。安眠の出来ない利用者について、本来のリズム作りを支援し医師と相談し薬の処方をして頂いております。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>個々に合わせ、買い物、調理、ゴミだし、清掃、個別の散歩をし、利用者主導の役割、楽しみになる様支援しております。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一人一人の希望、力に応じ、お金を所持し使えるよう支援しております。</p>		<p>本人のできる範囲で、スーパーのレジなどで支払いをしていただいている。</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>個々の希望に合わせて、戸外に出掛けられるように支援している。歩行困難の方は、車椅子や車で的外出をし負担のかからない様に支援している。忘年会を2～3人で夕方に出かけビール、おいしい料理を召上っておられます。</p>		<p>妄想などから郷里に歩いて帰ってくるなどおっしゃる場合でも、一対一の対応で、外出し、安心感、満足感を持って頂くよう支援しております。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>年1回大型バスで家族と共に旅行をおこなっている。春、秋には、全員での外出を企画し、御家族の参加も得ております。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すればいつでも、自由に電話を掛けて頂いている。携帯電話を持っている方もおられる。耳の悪い方にはFAXでの通信をし、ハガキは常備し、かけない方には、代筆をして支援しています。		長期に御家族からの連絡がないときは、職員の方から、御家族に電話、FAXを下さるようお願いしている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室又はリビングで一緒にお茶を飲んでいただいております。誕生会や小旅行の際は、参加していただき、一緒に楽しんでいただいております。		リビングで、職員、利用者、家族、皆で楽しいお茶のときを作っている。
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝礼時、話し合い、勉強会をし全員が、拘束のないケアを心がけている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関には鍵はかけない。利用者が出かけるときは、後からついて行き、見守り、時には声かけをし、本人の意思を尊重しております。		出かけた希望が有るとき、とめる事はせず、自由に出かけていただき職員が見守りをする。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者一人一人の日々の動きを把握し連携プレイによって見守りをしている。職員一人一人が虫の目を持って見守るようにしております。	
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一律になくすのではなく、家族に連絡し理解して頂いた上、取り除くか、位置をかえたりしている。洗剤など高い所に置き、包丁置き場には鍵をかけております。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人一人の身体状況を把握し、お粥、刻みなどを提供し、足の運びの悪い方にはホーム内でもシルバーカーを使用していただいております。		ヒヤリハットの報告書は、朝礼にてスタッフ全員で話合っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急蘇生講習の受講。 緊急マニュアルを目のつくところに提示。救急車対応時は、同じ職員が同行するのではなく、皆が経験できるようにしております。		朝礼時、緊急時の対応の再確認を行う。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施。 地域の方々を招待し相互理解を深め合い、業者による定期的設備点検、缶詰、水の備蓄をしている。防災ズキンも入居者一人一人用意しております。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	電話、面会時に現状報告をしている。 異変があったその時家族に連絡をしております。		家族との話し合い、現状説明等の記録を残すようにする。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	お茶、食事、体操、入浴時、あらゆる場面で、顔色や状態を観察し、異変時はバイタルチェック、時には受診へとつなげ、御家族への連絡、日誌への記録記入、共有しております。		排便、水分チェック表の確認をし、水分摂取が少ないときは、ポカリ、紅茶など他の飲み物を飲んで頂く。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の早見表(目的・用法・用量)を作成している。 毎朝職員が交代で薬の準備をすることにより、一人一人の薬の把握ができております。		処方を変更したときは、日誌に記入し共有するようになっている。 薬の名称、効能の理解に努める。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便表を作成し、一人一人の排便を把握し体操、散歩を積極的に取り入れ、摩り下ろしりんごやヨーグルト、牛乳なども取り入れております。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	全職員が、口腔ケアの必要性を理解した上で、声かけのみの人、半介助、全介助の方と一人一人に合ったケアをしている。口腔ケアは専門医の指導を仰いでおります。		歯ブラシのチェック、コップの清潔を保ち、口腔洗浄液なども使用されている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量チェック表を作成、メニューは栄養士作成をベースにしております。		好き嫌いの多い方への工夫した調理が、もっと必要だと思います。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防対応を全職員に周知し、保健所からの通達なども開示、ドアノブ、テーブル、イス、等消毒。冬季には加湿器、ぬれタオルに希釈したジア塩素酸をふくませて(そのせいか3年インフルエンザにもかかっていない)使用し乾燥を防いでいる。インフルエンザ予防接種を受けております。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、台フキン、包丁など毎日、除菌(ジア塩素酸)している。食品の買いだめをせず、毎日冷蔵庫チェックをしている。調理器具の取り扱い方、取り決めを、台所に掲示しております。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ビルの4F、5Fにあるので、玄関前に植木を置き、玄関は格子戸をいれた、和風な作りとしている。又入居者の作品等も飾るようにしております。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のつなぎに、畳の間があり、冬には、こたつにし、ソファを置いて、くつろげるようにし、食堂のテーブルには、季節の花を飾っている。廊下に行事の写真を掲示し、入居者、来訪者に楽しんでいただいております。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間は畳で、長いソファを置き、一人で新聞や週刊誌を読んだり、TVを観たり出来るようにしている。廊下にベンチを置き入居者同士座って話しが出来るようにしております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みの物、タンス、ベッドなど持ち込まれ、自宅であるという気持ちで生活して頂けるように支援しております。		居室スペースに限りがあるので、本人家族と話し合い、居ごち良く、安全を考えた居室作りをしている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の時、居室の換気をし、トイレの臭いはもちろんの事、不快感を起こすような臭いが漂わない様、常に気をつけている。冷暖房温度調整は、常にリモコンを持ち適温になる様気を配っています。		必要に応じ、扇風機や消臭スプレー等使用している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の個人の状態に応じ、シルバーカー、車椅子を使用するように工夫している。風呂場入口には手摺り、玄関にはイスを置き安全に注意しております。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	グループに分け、頭の体操ドリルや迷路、積み木くずし、貼り絵等毎日退屈しないアクティビティを用意して楽しく過ごして頂いています。居室には、表札を掛け、ドアに目印を(可愛い犬の写真等)を貼るなど工夫している。居室内清掃時大きく物を動かす事の無い様気をつけております。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物はビルの中の為外に出て散歩、町内で借りた花壇に行き草むしり、ゴミ拾い等をスタッフと一緒にいたり、プランターに折々の野菜をつくり、水やり、収穫を楽しんでおります。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

スカイホーム湘南 あおい

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者が「その人らしく、生活できる、持てる力を出すことができる」その為に、職員は何をすべきかを、いつも、第一に考えるよう朝礼で話し職員に浸透させています。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	スカイホーム湘南
(ユニット名)	グループホーム はづき
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市戸塚区名瀬町 36 - 4 KMプラザ
記入者名 (管理者)	大形 敬子
記入日	平成 19 年 7 月 3 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>朝礼時には、地域社会に根ざしたグループホームのあるべき姿について、すべてのスタッフが必ず確認しています。さらに、入口正面に基本理念を掲示し、常に理念を心に刻みつけるように努めています。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎朝の朝礼において、出席者全員がホームのめざすところを確認し合っています。又研修やカンファレンスを通じて、実践していくうえでの課題にとりこんでいます。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>定期的に家族会を開く。催し物、誕生会に来ていただき、日々の活動について理解してもらおう努め、ホームの新聞を発行し、家族に配布しビル入口に掲示し近隣の人々にも読んでいただくよう努めています。</p>	<p>今後、運営推進委員会を結成し、オブザーバーのことなど、近隣の方々の意見を取り入れ、ホーム内の様々な事項を開示し、入居者にとってよりよいサービスの提供につなげる。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩や買い物、その他の外出の機会には、近所の方々とのコミュニケーションを心がけております。しかしながらビルの5階という環境にあるため、ホームでの生活を紹介する新聞や写真を掲示するなどして、閉鎖性を排除すべく注意を払っております。</p>	<p>ビルの5階にあるため、エレベータを使うことにより、気楽な立ち寄りということにならないので、入口付近の雰囲気を楽しみやすく、どんな所かわかる写真などを掲示し、付き合いをより進めたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会に属し、町内清掃、夏祭りなど催し物に参加し交流を計っております。又地域内の中学校の文化祭に参加、見学している。中学校、高校のボランティア活動、体験学習の受け入れをしています。</p>	<p>ホーム内での催し、コンサート、演芸会、お花見にと、地域の方々がより参加したくなるように工夫して行きたい。消防訓練、避難訓練にも積極的に参加していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々、あるいは御家族と交流する際には、介護保険制度や介護サービス、認知症などについてもわかりやすくクチャーし、あるいは家庭内での具体的な介護方法についてのアドバイスも行っております。		又キャラバンメイトに参加し、認知症に対しての啓発を行って行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホームにおける日々の業務やサービスを見直す機会としてとらえ、評価を朝礼やカンファレンスの議題に取り上げて、一歩一歩地道に改善の努力を重ねております。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年7月末第一回開催にむけ準備中です。家族会とは異なる視点での評価や意見を頂けるものと考えております。それらを真摯に受け止め、今後の更なるサービスに繋げていくよう努力したいと思っております。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自治会の役員の方々や入居者、スタッフ、会社役員を含めた食事会を設け、お互いの交流をより一層促進すると共に、災害時における飲料水や食料の確保などの課題についても話し合っております。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	公的及び私的な機関が主催するさまざまな研修に参加し、研修無い様を朝礼で報告することにより、スタッフ一同が事業や制度の理解に努めております。さらに御家族への啓蒙を進めております。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	まずは虐待の定義について徹底して学び、なにが虐待につながるのか、いろいろな角度から分析して要因を索っています。また虐待防止の定義を廊下に掲示し、全職員がこれを遵守するよう教育しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ホーム内で出来る事、出来ない事をあらかじめ明確に説明し、かつ、御家族や入居者の意向や要望も時間をかけて丁寧に伺い、十分に納得していただいたうえで契約を結んでおります。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常生活の中、朝礼、外出時、あらゆる場面で利用者自ら、意見要望を自由に発せられるよう心がけ、家族への手紙、電話などで、いつでも連絡が取れる体制を整えています利用者、御家族、関係者と忌憚なく意見を交換し、ケアプランに反映させております。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>3ヶ月に1回家族会を開催し、ホーム新聞を発行し、面会時にも日々の生活の様子をお知らせしております。お小遣いは、月初めに前月の収支報告を郵送しており、個人の体調変化、訴えに即対応、電話、FAXにて連絡をしている。職員の移動は、家族会、面会時に報告しております。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会、イベント等の機会を通じ、要望、提案等自由に発言していただき、家族同士が話し合える場を提供し意見を伺い、職員はそれらの意見を全員の周知のもとに、サービスの改善に努めております。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>朝礼、カンファレンスで互いの意見を交換しているのは言うまでもなく、問題や疑問が生じれば、日々の業務の合間にも、互いが納得できるまで話せる体制を整えております。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>十分な人員を確保しローテーションを組んでおり突然の休みに対して、代わりの者がバックアップに入れるようにしております。夜勤者からの申し送りは、口頭にて聴き、ノートに記するようにしている。入居者のレベルダウンに伴い、状態に合わせ人員を増やしている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は、必要かつ最小限にとどめています。離職者がいる場合には、十分な時間的余裕をもって引き継ぎを行い、新職員に対しては、あらかじめ社内研修を実施して、違和感なくホームに溶け込めるように教育しております。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日朝礼を行い、理念やケアについての話し合いを行っている。研修に参加した職員は、朝礼で研修内容をつたえている。(例：事業主の研修の場所になっている。)		ホーム内研修ファイルを作成し、定期的な見直しをする。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の定例会、連絡会への参加。同系列グループホームの研修を受け入れる事により、他の人の気付き、意見を参考とし、サービスの向上に努めております。同系列のグループの職員のスキルアップのための研修場所になっている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的な食事会・意見交換の場をもうけ、一人一人の意見を大切に、必要な際には助言を行う。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフ一人一人の得意分野を見つけ、力を発揮してもらい、成功した際の自信や意欲に繋げていく。自分の中で短期目標を定め、それに向け努力するようにし、自己啓発に努めております。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時の面接においては、現在直面している問題点、不安点等について詳細に伺い、いかにして解決すべきか、御家族、入居者とスタッフが一緒に考えて、信頼関係を築いております。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接や家族会などの機会を通じて御家族の悩みや不安は、まずは、そのままスタッフ自信の悩みや不安として受け止めて傾聴に努めています。しかる後に、スタッフの考えやこれからの方策を提示し、支持していただけるように心がけております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の電話等の時は、ホームに足を運んでいただき、困っていること、不安な事が何なのか具体化し、ニーズを把握し、地域のケアマネージャーと連絡をとり必要に応じたサービス利用を考えております。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームでの面接と合わせ、入居されている方々の交流が持てるようにし、食事を一緒に召上っていただいたり、雰囲気を感じてもらおう努めております。時には入居者本人も朝礼に参加意見を、同じ目線で話し合う。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のかつての経験や知識を尊重し、ホーム内での生活で協力して頂いております。また、昔の思い出なども拝聴し、職員一同が学ぶとともに、日々のレクリエーションに活用しております。		買い物で荷物を持って頂いたり、食事作り、配膳、食器洗い、雑巾縫いなどして頂いたりし、そのときは必ず感謝の言葉を伝えるようにする
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来ていただいた際、昔の様子を聞いてケアのヒントにする。家族と一緒に外出したり、招待する機会を作り時間を共に過ごすよう支援しております。		家族面会時、近況を必ずお話し、不安な事変化があったときは随時連絡を入れるようにする。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会を通して認知症への理解を深めて頂く。あまり面会に見えない場合は、近況をFAXにて送らせていただき、面会にきて頂けるようすると共に、手紙、電話等して頂けるよう働きかけております。		病気にたいしての理解が得られるよう、周辺症状等説明している。 又近況をお話する。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人を取り巻く人間関係について把握し、電話、FAXなどで連絡を取り、繋がりを継続できるよう支援している。		本人の希望があった際は、電話、手紙は自由にかけてたり、出したりされている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士がくつろいで歓談している時には、その雰囲気が保たれるように、スタッフが見守りをしています。言い争いなどちょっとしたトラブルが発生した際には、即座にスタッフが介入し、おおきなトラブルを未然に防ぐように勤めています。また、入居者同士でトラブルを解決すべく、傍らのスタッフが誘導しております。		他入居者とのかわりが、むずかしい方には職員が仲介に入り、その方が主役になれる場の提供を支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	諸般の事情によりやむなく退居にいたった場合でも、入居者のニーズにかなった行き先やサービスの提供を行っております。また御家族とも連絡し、その後の経緯も把握するよう努めております。		退居後もご本人が、その人らしく生活できるように、必要に応じて情報提供をおこなっている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何をするのも、本人の意思確認し尊重するよう努めている。本人の好きな飲み物を用意する。家族に電話をしたいなど、一つ一つに対応するようしております。		相手の立場に立った考え方ができるよう、心がけ、話し合いを行っています。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面接、面会時、折々家族から情報を得ておく。入居者の方々からも昔の話など聞く。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事の時は、同じテーブルにつき、食事の進み具合など気に止めるようにする。本人が出来る事判る力を把握しておくよう努める。一人一人に合わせ、好みに合った調理、キザミ、トロミ、全粥等にしております。		日勤、夜勤の申し送りノート、気づきノート、個人記録業務日誌を活用し把握する。
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ことあるごと細やかなケースカンファレンスを行う。面会、家族会を利用し、御家族の意見も伺い、ケアに生かせるように努めております。		一方の視点からではなく、多角的にその人は、見ていくよう努めケースカンファレンスをまめに行う。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに更新。状況に合わせ、必要な際はケアプランの見直しをおこなっている。本人、家族、職員の三者で話し合う場合もあります。		介護計画につなげる為ためにカンファレンスを行い、気づきノートなど活用し、スタッフ間の共有に努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録については、センター方式D-4を採用し、入居者の言葉やスタッフの観察分析を記入し、ケアプランの作成に活用しています。又連絡ノートとは別に気づきノートと申し送りノートを置き、必要な情報はくまなくスタッフ間で共有しております。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列病院から、月2回認知症専門医の先生に往診をしていただき、意見アドバイスを受けている。系列病院への外来受信、入院等。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	踊り、コーラス、バレエ、エアロビックス、伝統芸能等々多義に及ぶ文化ボランティアグループの協力を仰ぎ、ホームでの生活を豊かにすべく努めております。		消防署の指導による防災訓練に参加し、入居者の安全をより一層高めて生きたいと考えております。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問看護の利用を検討している事例も有りますが、入居者の自己負担になることを考慮に入れ、現状に於いては、他のサービスは利用しておりません。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	7月末に運営推進委員会開催を予定しており、センター職員に委員を依頼し、今後協力していくこととします。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ビルの1Fにはクリニックがあり、月1回往診により、薬の処方を受け、アドバイス、相談をしています。系列病院から認知症専門医師の往診。湘南台歯科クリニック、共立第一、第二病院を利用しております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	系列病院から、月2回認知症専門医師月2回往診実施、薬の処方を受け、細やかなアドバイス、相談をし、適切なサービスを提供しています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム職員の看護師が細やかに指導し、食事、バイタル、水分チェック、睡眠排便の有無など気を配り、異常のサインを早期に発見できるように努めています。		水分チェック表、排便表、バイタル表、月1回体重測定などを行っています。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際主治医、家族、病院関係者と話し合い、法人の病院からも協力を得て、3週間をめに連絡を密にし、退院の見通しをつけております。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化して、医療面でのケアが必要とされるケースでは、集中的なカンファレンスを繰り返し行い、かかりつけの医師の意見を参考にしながら、自分達に何が出来る、何が最良なサービスなのかスタッフ全員で話し合っております。又御家族との連絡を密にし、御家族の意向を伺って共に、ホームでの方針を理解して頂いております。		介護ではなく、医療面での支援が多くなってきた場合、家族への連絡を密に行っています。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療と介護の協会を、スタッフ全員で研究し、かかりつけ医師とホームの看護師の指導のもとで、介護者としての、適切かつ誠実を込めた支援を実施しております。		かかりつけの医師と相談の上、受け入れ病院などを検討し、リストアップしておく。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	すでに介護サービスを受けている場合は、先方のケアマネからケアプランや生活歴、直近の様子等についての情報入手し、さらに御家族から話を伺って、新しい生活への要望、自宅での生活環境を把握し、住み替えが可能な限りスムーズに運ぶ様心がけております。又御家族のいない入居者については、福祉課の担当者や病院の医師などから情報を集め入居者本人が自然に過ごせる環境を整えております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人前であからさまに介助しないようにし、本人を傷つけない様に言葉掛け対応に配慮している。 個人情報保護に関する契約を事業所と交わし徹底を図っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>基本的に入居者、御家族と話し合い、本人の希望に沿った趣味、活動や、嗜好品サービスを提供しております。ただし他の入居者の迷惑になったり、本人の財産や健康を害する事柄については、入居者御家族に納得して頂いたうえで提供をお断りしております。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ホームでの生活は、常に入居者が主人公である、というのがホームのモットーの一つです。個々のペースやスタイルを尊重し、その人にふさわしい生活が送られるよう、支援しております。</p>	<p>朝礼で、ことあるごと、管理者は利用者が主人公ということを職員に話しております。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入居者自身の選択により日々の身だしなみや整容を決定しています。あまりにも見苦しかったり、同じ服装が続いたりすればスタッフが整容したり、服装を決めることもあります。2ヶ月に一度訪問理美容を利用し、要望があれば、馴染みの美容院へ行けるよう支援しております。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者のリクエストに応じてメニューを決めることもありますが、配膳、盛り付け、後片付けといった作業はスタッフと入居者が協力して行い、かつ入居者とスタッフと入居者が同じテーブルについて、くつろいだ雰囲気ですら団欒できるよう努めております。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>御家族の要望と入居者の健康に配慮して、ホーム内での喫煙は、提供していません。又高血圧症、高脂血症、糖尿病といった、入居者それぞれの抱えた問題に鑑み、医師に許された範囲内での嗜好品の提供を行っています。</p>	<p>誕生会には、本人の希望に合わせた料理を出すことを心がけております。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、さりげなく支援し、失敗時本人が傷つかない様、周囲に気づかれないようにさりげない配慮をしている。 排泄記録をつけております。		便秘がちの方には、牛乳・ヨーグルト・すりおろしリンゴな飲んで頂いて、排便を促すようにしています。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人のこれまでの、生活習慣や希望に合わせて入浴できるよう支援し、シャワー浴はいつでも可能である。 負担にならないよう程度の入浴時間で自由に入浴して頂いております。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	外出、レクリエーション後などは、個々の疲れ具合により急速していただく。安眠の出来ない利用者について、本来のリズム作りを支援し医師と相談し薬の処方をして頂いております。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活観を参考にして、それぞれの入居者に合った、仕事を分配して頂いています、又様々な趣味活動の場を提供して、生き生きとした生活を送れる様配慮しております。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭とは、単なる物でなく入居者と社会を繋ぐ象徴的なものであるし、認識しています、お金を持つては社会との関わりを維持するようにしており、従って可能な限り、入居者のお金の所持や使用を支援しております。		本人のできる範囲で、スーパーのレジなどで支払いをしていただいている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望に合わせて、戸外に出掛けられるように支援している。歩行困難の方は、車椅子や車で外出をし負担のかからない様に支援している。忘年会を2～3人で夕方に出かけビール、おいしい料理を召上っておられます。		妄想などから郷里に歩いて帰ってくるなどおっしゃる場合でも、一対一の対応で、外出し、安心感、満足感を持って頂くよう支援しております。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年1回大型バスで家族と共に旅行をおこなっている。春、秋には、全員での外出を企画し、御家族の参加も得ております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すればいつでも、自由に電話を掛けて頂いている。携帯電話を持っている方もおられる。FAXでの通信をし、ハガキは常備し、かけない方には、代筆をして支援しています。		長期に御家族からの連絡がないときは、職員の方から、御家族に電話、FAXを下さるようお願いしている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室又はリビングで一緒にお茶を飲んでいただいております。誕生会や小旅行の際は、参加していただき、一緒に楽しんでいただいております。		リビングで、職員、利用者、家族、皆で楽しいお茶のときを作っている。
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が入居者の安全を確保し、何が入居者を拘束する行為なのか、スタッフ全員が朝礼のみならず、あらゆる機会を利用して勉強と情報の共有化を図っております。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関には鍵はかけない。利用者が出かけるときは、後からついて行き、見守り、時には声かけをし、本人の意思を尊重しております。		出かけた希望が有るとき、とめる事はせず、自由に出かけていただき職員が見守りをする。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者一人一人の日々の動きを把握し連携プレイによって見守りをしている。職員一人一人が虫の目を持って見守るようにしております。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的には、本人や御家族の承諾を得たうえで、刃物類は一括して事務所で保管しています。そのほかの物については、入居者の状況に応じて、自由を重んじながら適旦安全を確保しております。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人一人の身体状況を把握し、お粥、刻みなどを提供し、足の運びの悪い方にはホーム内でもシルバーカーを使用していただいております。		ヒヤリハットの報告書は、朝礼にてスタッフ全員で話合っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急蘇生講習の受講。 緊急マニュアルを目のつくところに提示。救急車対応時は、同じ職員が同行するのではなく、皆が経験できるようにしております。		朝礼時、緊急時の対応の再確認を行う。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施。 地域の方々を招待し相互理解を深め合い、業者による定期的設備点検、缶詰、水の備蓄をしている。防災ズキンも入居者一人一人用意しております。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	現状を把握し、現状から推測されるリスクを、面会時、家族会の機会に説明をしております。相互の話し合いの中から、生き活きとした暮らしが営めるようにホームで取りえる最善策を導き出し実施しております。		家族との話し合い、現状説明等の記録を残すようにする。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	お茶、食事、体操、入浴時、あらゆる場面で、顔色や状態を観察し、異変時はバイタルチェック、時には受診へとつなげ、御家族への連絡、日誌への記録記入、共有しております。		排便、水分チェック表の確認をし、水分摂取が少ないときは、ポカリ、紅茶など他の飲み物を飲んで頂く。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の早見表(目的・用法・用量)を作成している。 毎朝職員が交代で薬の準備をすることにより、一人一人の薬の把握ができております。		処方を変更したときは、日誌に記入し共有するようになっている。 薬の名称、効能の理解に努める。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便表を作成し、一人一人の排便を把握し体操、散歩を積極的に取り入れ、摩り下ろしりんごやヨーグルト、牛乳なども取り入れております。排便が見られない場合は、マッサージをしたり、飲食物を工夫したりして自然排便を促しております。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	全職員が、口腔ケアの必要性を理解した上で、声かけのみの人、半介助、全介助の方と一人一人に合ったケアをしている。口腔ケアは専門医の指導を仰いでおります。		歯ブラシのチェック、コップの清潔を保ち、口腔洗浄液なども使用されている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量はチェック表を作り過不足が、ないかどうかチェックしております。又栄養に偏りが無い様に、栄養士が作成したメニューをベースにして計画しております。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防対応を全職員に周知し、保健所からの通達なども開示、ドアノブ、テーブル、イス、等消毒。冬季には加湿器、ぬれタオルに希釈したジア塩素酸をふくませて(そのせいか3年インフルエンザにもかかっていない)使用し乾燥を防いでいる。インフルエンザ予防接種を受けております。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、台フキン、包丁など毎日、除菌(ジア塩素酸)している。食品の買いだめをせず、毎日冷蔵庫チェックをしている。調理器具の取り扱い方、取り決めを、台所に掲示しております。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ビルの4F、5Fにあるので、玄関前に植木を置き、玄関は格子戸をいれた、和風な作りとしている。又入居者の作品等も飾るようにしております。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のつなぎに、畳の間があり、冬には、こたつにし、ソファを置いて、くつろげるようにし、食堂のテーブルには、季節の花を飾っている。廊下に行事の写真を掲示し、入居者、来訪者に楽しんでいただいております。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間は畳で、長いソファを置き、一人で新聞や週刊誌を読んだり、TVを観たり出来るようにしている。廊下にベンチを置き入居者同士座って話しが出来るようにしております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みの物、タンス、ベッドなど持ち込まれ、自宅であるという気持ちで生活して頂けるように支援しております。		居室スペースに限りがあるので、本人家族と話し合い、居ごち良く、安全を考えた居室作りをしている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の時、居室の換気をし、トイレの臭いはもちろんの事、不快感を起こすような臭いが漂わない様、常に気をつけている。冷暖房温度調整は、常にリモコンを持ち適温になる様気を配っています。		必要に応じ、扇風機や消臭スプレー等使用している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の個人の状態に応じ、シルバーカー、車椅子を使用するように工夫している。風呂場入口には手摺り、玄関にはイスを置き安全に注意しております。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者と一緒に居室の清掃や整理を行い物の遺失や見当識の混乱防止に努めております。又居室のドアには表札を作り、本人の好きな写真や絵を貼って、他の入居者の居室との区別が出来るようにしております。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	近所に花壇を借りホーム全体の花を育てています、ベランダにはプランタを置き、ユニット毎で花や野菜作りを楽しんでおります。又可能な入居者には、ベランダに出て頂きスタッフと一緒に洗濯物の物干しのお手伝いをお願いしております。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者が「その人らしく、生活できる、持てる力を出すことができる」その為に、職員は何をすべきかを、いつも、第一に考えるよう朝礼で話し職員に浸透させている